

モーリタニア月例報告  
(2020年5月)

2020年6月  
在モーリタニア日本国大使館

主な出来事

【内政】

5月27日 野党による、アブデル・アジズ前大統領の公金横領疑惑に係る議会調査委員会の活動等に関する声明の発表

【外政】

5月4日 ガズワニ大統領の非同盟諸国特別首脳会議出席

5月28日 ガズワニ大統領の「新型コロナウイルス時代とその後における開発資金ハイレベルイベント」への参加

【保健】

5月7日 アタールにおけるデング熱の発生

5月20日 モーリタニアにおけるクリミア・コンゴ出血熱の発生

【経済・開発協力】

5月14日 UNICEFによる医療物資の提供

5月29日 世銀による6,000万米ドルの対モーリタニア援助

【内政】

野党による、アブデル・アジズ前大統領の公金横領疑惑に係る議会調査委員会の活動等に関する声明の発表（5月27日付当地政府系ニュースウェブサイト「モーリタニア通信（AMI）」）

1 5月27日、複数の野党が、アブデル・アジズ前大統領の公金横領疑惑に関する議会調査委員会の任務遂行に対する支持を表明し、調査を加速化させる必要性を強調した。

2 進歩勢力同盟（UFP）ら野党は、声明の中で、議会調査委員会の信頼性に疑義を呈する一方的な妨害活動における主張を否定し、モーリタニアはこれまでになく、前政権の政権運営にスポットライトを当てる必要性が生じていると述べた。

3 また、野党らは、干ばつ危機に対する適切かつ緊急の対応策の提示及び牧畜従事者への家畜飼料の十分かつ合理的な価格での供給、慢性疾患患者のための医薬品の早期供給を要請した。

4 また、野党らは、政府に対し、人事面におけるグッドガバナンス及び透明

性のルールを遵守することを促した。

5 野党らは、議会において、新型コロナウイルス感染症対策にダイナミックかつ即座に対応できるような国民合意を形成するという目的に従い、政権の呼びかけに即時的かつ積極的に応じてきたと述べた。

6 同声明には、進歩勢力連合、タワースル党、進歩人民同盟、民主勢力連合（RFD）、民主的交代党（UNAD）、サワーブ党が署名した。

#### 【外政】

##### ●ガズワニ大統領の非同盟諸国特別首脳会議出席（5月4日付「AMI」）

1 5月4日、ガズワニ大統領は、テレビ会議で開催された非同盟諸国特別首脳会議に出席し、スピーチを行った。

2 ガズワニ大統領は、スピーチにおいて、アフリカ諸国への新型コロナウイルス感染症の悪影響を回避するには、アフリカ諸国が直面する様々な脅威の大きさに鑑みて、対外債務を免除することが唯一の解決策であると述べ、非同盟運動に対し支持を促した。

3 また、ガズワニ大統領は非同盟運動の首脳らに対し、斬新かつ強力な方法で新型コロナウイルス感染症による脅威に対応するため、各国の努力、知見を結集し、連携を更に強化するよう呼びかけた。

##### ●ガズワニ大統領の「新型コロナウイルス時代とその後における開発資金ハイレベルイベント」への参加（5月28日付「AMI」）

1 5月28日、ガズワニ大統領は、カナダ、ジャマイカ及び国連事務総長が主催し、約50の首脳や国際機関の長が参加した新型コロナウイルス感染症による医療危機及び開発への脅威に対処するための途上国への支援について協議する会合にテレビ会議で参加した。

2 ガズワニ大統領は会合でスピーチを行い、増大する累積債務等、新型コロナウイルス感染症が脆弱なアフリカ経済に与える甚大な悪影響について述べた。

3 ガズワニ大統領は、モーリタニアは3月以降感染拡大防止のために努力を続けてきたが、依然として感染が広がっており、少しでも気を緩めれば感染の第二波を招きかねず、脆弱な経済に与える被害が深刻化する恐れがあると述べた。

4 また、開発支援におけるすべてのパートナーの取組みを評価し、G20の債務返済猶予に関する決定を歓迎した。加えて、コロナ禍による甚大な被害に対抗し、SDGsを達成するためには、完全かつ即時の債務免除が必要であると訴えた。

5 さらに、この前例のない危機により、これまでの支援モデルや国際協力体制のメカニズムを再考する必要に迫られていると述べ、我々はこの苦難から教訓を得て、国内の開発アプローチの制度設計の再構築に取り組む必要があると呼びかけた。

#### 【保健】

●アタルにおけるデング熱の発生（5月8日付当地独立系ニュースウェブサイト「サハラメディア」（アラビア語））

1 保健関係者は、モーリタニア北部のアタル市（首都ヌアクショットの北東約700kmにあるアドラル州の州都）においてデング熱の発生が複数確認されたことを明らかにした。

2 同関係者は、アタル市の市立病院で7日にデング熱の症状が見られる患者に検査を実施したところ、デング熱の発生が判明したと述べた。

3 また、有熱症状のある患者が数十人おり、デング熱、マラリア、新型コロナウイルス感染症の3種類の検査を実施したところ、検査結果からは、新型コロナウイルスの感染は確認されず、大半がデング熱ウイルスの感染であることが確認された。一部、マラリアに感染していた患者もいた。

4 デング熱は、人と人との間で直接感染する感染症ではなく、蚊を媒介して感染し、インフルエンザと類似の症状が見られ、死に至ることもある。

5 WHOの報告によれば、現在、世界の人口の約半数がデング熱の危険にさらされており、デング熱に対する治療法や早期発見方法は確立されていないが、早期発見と適切に医療機関を受診することにより、死亡率を1%未満に低下させることができるとされている。

6 デング熱は、モーリタニアにおいて、過去数年の間、感染が拡大しており、首都ヌアクショットを含む地域で多くの感染者数が見られた。医師らは、デング熱の予防のために蚊の駆除及び防蚊対策を呼びかけている。

●モーリタニアにおけるクリミア・コンゴ出血熱の発生（5月21日付当地独立系ニュースウェブサイト「クリデム」（仏語））

1 WHOは5月20日、クリミア・コンゴ出血熱の患者1名がモーリタニアで発生したと報告した。

2 同患者はティギント（トラルザ州南西部）出身の60歳の肉屋の男性。発症前に肉の処理を行っていた。渡航歴はなし。

3 5月2日から、発熱、倦怠感、頭痛、鼻出血の症状が見られ、5月7日に医療機関を受診。検査の結果ウイルス性出血熱の疑いがあったことから、更なる治療のため同日ヌアクショットの救急に搬送。5月8日に国立公衆衛生研究

所（INRSP）でRT-PCR検査によりクリミア・コンゴ出血熱と判明し、感染症専門機関で隔離及び治療された。

#### 【経済・開発協力】

##### ●UNICEFによる医療物資の提供（5月14日付「AMI」）

1 5月14日、バー・ハンパセ（Dr. Ba Hampathe）首相付社会問題担当顧問は、ヌアクショットのテブラグゼイナ地区で行われたUNICEFによるモーリタニアの感染症対策を支援する医療物資の引渡式に出席した。

2 同支援物資には、1. 3トンの塩素系物質、100のスプレー装置、11,000の防護服、60の赤外線検温装置、医療用ブーツ及び医療用眼鏡等が含まれている。

3 バー顧問は、同支援は新型コロナウイルス感染症対策における当局の真のニーズに応じて実施されたものであり、UNICEFの当国に対する継続的な支援に対して謝意を表した。また、同顧問は、モーリタニアは予防的措置を通じて新型コロナウイルス感染症対策を取っており、早期から同感染症の危険性を認識してきたと述べた。

4 マーク・ルセ（Mr. Marc Lucet）UNICEFモーリタニア事務所代表は、モーリタニア政府の感染症対策の努力を支援できることを喜ばしく思うと述べるとともに、新型コロナウイルス感染症から身を守るために保健ガイダンス及び拡大防止措置に従うことの重要性に言及し、モーリタニアの新型コロナウイルス感染症との闘いを支援する準備があることを改めて確認した。

##### ●世銀による6,000万米ドルの対モーリタニア援助（5月29日付「クリデム」）

1 5月29日（世銀HPは5月28日付の発表）、世銀理事会は、人的資本強化を目的とし、国際開発協会（IDA）から3億7,600万米ドル（対モーリタニア予算の6,000万米ドルを含む）の資金投資を承認した。同資金援助は、「サヘル女性のエンパワーメントプロジェクトと人口ボーナス・プロジェクト（SWEDD）」の枠組みにおける追加資金援助となる。同イニシアチブは、2014年の、ニジェール、ブルキナファソ、チャド、コートジボワール、マリ及びモーリタニアの各国大統領の呼びかけに応じたもの。

2 同追加投資により、世銀のSWEDDへの総投資額は6億8,000万ドルとなった。モーリタニアは、この追加資金供与により、「成長の加速化と共有化された繁栄（SCAPP）」戦略に一致する既存プロジェクトの拡大を図る予定であり、特に、思春期の少女とそのコミュニティを対象とした活動に投資され、少女の心理社会的スキルやセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルスの向

上や経済的展望を拡大する。さらには、法律、宗教規則や慣習を組み合わせることにより、女性に対する暴力の防止を強化し、少女の社会的・経済的エンパワメントの向上を目指す。

(了)